



萬國新聞

第壹號

明治四年辛未十月



18
115
175 持

18
115
/

7-7-11
購

官報

萬國新聞第一號

ジャパンヘラ九ド第二千四百八十五號

明治四年辛未十月五日刊行



昨夜又山手公園の向ふて「ウオルフ人名」に住居ある四十番
乃家へ盜賊入りたり此盜賊外よ泥板戸を破る硝子板取
去れ窓を開き室内を巡り諸品物を十分負ひて遁
去れ主人ハ二階を臥し居り知りしと雖も小使一人便所
に隠れ盜賊の様子を見届たりと云

○

一昨夜辨天の失火を焼酒と合薬とを粗忽可取扱ひし由
で誤る失火せしなり本人を大み焼傷したりと云實ふ慎む
べきことなり

○
辨天通の住みも日本商人某の妻の嫉妬深き女なりし
或日其夫を誘ひ出し酒を進めて泥酔せしめしり夫を前後
忘却しり家へ歸り直に熟酔せしり目を覺し見れば何時か
嫉妬深き悪婦の爲に己を身切せし不具に成りたりと
近頃日本政府の新聞を見たり

○
東京にて海軍局の改革に來る火曜日にあたりと云

○
横濱並に横須賀へ

御幸の事ハ未だ確定せし何れ海軍局改正の後なるべし

○
シヤツパンガゼット新聞第一千百八十二號

○
明治四年辛未十月三日刊行

方今和蘭の軍艦「ユチスコ」ア艦名「バタビア地名」より横濱
に來りて又此頃「ボトソンベイ地名」に到着せり和蘭より此
度此艦が出する主意ハ澳大刺利に諸府と和蘭領印度の

市街との間を飛脚船の通路を開らむか爲す

○
近頃日本横濱の送り状を以て船積したる絹五百俵の商物を「リールプール」に送るに「サンフランシスコ」より「ニューヨルク」迄の蒸氣車道を通行し夫より大西洋の蒸氣船にて送る都合四十七日よて「リールプール」に到着したると云即ち請負日限より六日早く到着せりとの評判あり此運送ハ「シユエス」の堀割坂通より運送するよりも十三日早くあるへしと此風聞あり

○
ジヤツパンガゼット新聞第千八百八十三號

明治四年辛未十月四日刊行

當一千八百年代の前より人間の浮沈甚く不公平なりしを萬國公法の書世り行はせてよは財本と勤勞と此間之行違ひを生しおは然しとを財本と勤勞とを素より離れるかゝる況れ者にして財本ありとを勤勞あり非はるハ一物をを生んる事能はハ一錢の利も得れと能はる工人を富人ありて財本を出はに非はるハ其業を爲はこと能はハ是れ無智乃者と雖も能く知れ所なり工人と雖も豈此理を解せしむるや貨幣の價下落はるハ賃銀の割合も之に隨て變は

るべきに當然な程今開化の時の方々工人勤勞の時間ハ適宜
よして其日は活計を立派に足るしをへし何そ必しも晝夜
を止めぬしと勞苦をせむの理ありや工人勤勞して其
賃を得るハ又家へ歸りて安息する時間ならざる可からず
に雇人を使役はれ者とのと荷擔して考ふ可からず財本と
勤勞とは行違ひを上に説く所と止まらざれば雖も雙方の望
む所各一理無きにあらず故に若し偏固の處置を爲はし時を
大にちた製造局の差配人立行き難く工人を亦其製造局と
り利を得ること能はしめて終に雙方共に瓦解ふいふ事
さ一大事件なればとを此儘よてを速に立行はれ

如何しと之を平均はるべきや先は工人の巧と拙とを分別し
て賃銀の高下を定め勉強して懇懃に奇巧を成はる者も速に
懶惰にして拙劣なれ者の上を昇らしむるし假令に議論ふ
於て多立派な條理を立は可しと雖も萬民は貧富巧拙に於
て平均を得るに非ざるハ同社公平に利を得ること難らる
るし人に貧富あり大に財貨を貯蓄は商人を常ふ勢ひ盛な
る財貨ハ猶人民若しくは會社は血液の如し國若し財貨に
乏しき時の財本を蓄積せむる爲め其土産を生はれはこと
と於て大に其國民は筋骨を勞し神經を苦しめはれ可から

○
日本國を上に論議は所は平均を生きたる者は適例なり
外國人此國と條約を結ひて爰り來りしよ日本初めて
賃銀甚安きを知り日用の諸品極め廉なるを覺て國中
の人民些少の賃銀を受るる故に至る貧しと雖も政府より
制限せしむる賃銀を増ことを得る奢侈の風を爲る者稀な
る或は以て財貨流通を以て外國人來りしよ不都合起り
しこと一方ならは第一外國人の爲めと必用の物甚多くし
る之を求むること甚ち急なるを以て國民の日用物を製し
るに暇なく遂に諸物品の價を沸騰するにいたり故に諸

工人の賃銀俄と騰貴するを以て工人皆横濱及び其他の開
港場の輻湊を以て依て日用の諸品騰貴し之を求むると急な
れは愈々貴し外國人初る横濱に到るときは物價乃賤し
こと比類ならざりしを暫時にして最も貴き所とふる初る
外國人を絹糸茶綿花蜂蠟其外の産物を皆信し難き程乃廉
價ふて澤山に買入り之を其本國に積り送りたる然るに此
等の産物に價俄と騰貴せしに由り官吏等思へらく此の如
く大なる外國貿易を爲して國中忽ち疲弊及ぶしと大
に憂苦し國民も物價に沸騰せるを以て開港を好まぬ日本
官吏久しく其餘に諸港を開るに於て所以なり然るに各

國よて強て開港を求めしと官吏等曰く若し今諸港を開き
て實に國中疲弊はれことありは激徒起りて必は條約を破
れぬしと又其後水油。生糸。茶。生蠟。等の輸出高を限るむと公
然各國へ相對して承諾ありて心事を求めし事あり

○
外國貿易は日本政府を取りては甚珍らしき事にて之を爲
る國中に大なる利益を得て外國人殺傷の時も一時は莫大
の償金を拂ふに足る程の財貨を集えしは顧みれば猶鎖港の
説ありを察初は日本人は横濱は新港を開くとも他所に住
まざる者よて多くは利益を與へば是れは横濱に來居者ありは

しく且は一時は集るとも陸續せはるへしと思へり米は輸
出入とも厳禁ありしは一千八百六十六年凶作ありしは
由り其年の米の輸入を許し政府も之を希望せしは
由り忽ち此國は缺乏を補ひたり然れども若財本ありは是
は何れ以ては此便宜を得は事ありむや此の如く財本のは
爲るは國益を得れば財本を出渡者も亦利ありきは當然
なり

○
日本に於ては愈財本を増して之を國中に用ひなれば必愈利
益多かるべし然るときは外國人も國中諸部に於て貿易は

此事を得る日本政府も大に貿易が繁昌せしむる事を得

日本の沃土が耕耘し地下の礦坑が穿たれ事ハ即ち此國に要
用なる勤勞を以然れ共若し財本と協合せ然れハ國益が起
決事能ハ以手取口に入て生産が俟とも利益が得たなし必
勤勞せ然れハ大金が得る事能と決若し貿易が盛大に開ら
むと欲せハ巨萬の財本が出し大に勤勞決可し然るとさ
愈盛に財本が増加し幸福多るに及べし日本政府若し之が勤
勞て大に財本が増して之を流用し且海外國人がしる鑛山

が掘り田土を耕決事得せしむハ外國人の悦喜之と過さ
然れハ一萬國多しと雖も此國は如く自在に財本流通し
者ありて東京横濱は間々鐵路が開るハ運輸便宜なるを以
て又外國より諸品が輸入多く政府の利益も從て多るる
し然れとも萬國の公法が日本國に入るは然れし決今
の如く此國財本が集めしむ能く工人を使役し財本を出せ
る者決利益せしむるのみならず決且此國が富強なるしめむ
事と希望し

